

和歌山だよいい

平成25年
(2013) 11月号



奇絶峡 (田辺市)

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P12
3. お知らせ…………… P13
4. ふるさと歳時記…………… P14～P15

スポーツ祭東京2013
への御声援ありがとう
ございました。



長嶋選手と技術

長嶋茂雄さんという人がいます。国民栄誉賞を受けた世紀の天才バッターで、カンやヒラメキで、どんな球でもヒットにしてしまうというイメージがありますが、この間テレビを見ていたら、実は、長嶋選手は、ものすごい練習をする人で、その練習によって技術を磨き抜き、その技術にものを言わせてヒットを打っていたのだそうです。正しい技術を身に付けていたからこそその長嶋だったというのです。

国政や県政や市町村政も同じではないかと思えます。ともすれば、ああしよう、こうせねばという事を、聞いている人の心を躍らすように語る雄弁がもてはやされますが、国政でも県政でも市町村政でも技術が伴わなければ、実現不可能のまま終わってしまいます。また、現在の制度、国の指導などを堅苦しく解釈してしまっていて、必要な事、切実な事に踏み出せない結果に終わってしまいます。だから為政者は、政治や行政に必要な技術を苦勞して習得し、何度も現実に向き合いながら磨き上げていく必要があるのです。ちょうど猛練習で野球技術を磨き上げた長嶋選手のように。

それでは政治行政の技術とは何でしょうか。それは現実と制度についての正しい知識なのですが、それは単に現在の制度がどうなっているのかという事だけではありません。それがどんな理由ででき上がっているのかという知識、そして人々の幸せのためにはこれをどう動かしていくべきかという知識のすべてが合わさったものであると思えます。

長嶋選手のような練習をせず、為政者がさぼっていて何事も部下や他組織に依存していたら、前例や旧習から抜け出す勇気と熱意を持たない官僚にそれこそ支配されるのではないのでしょうか。



10/18 「きいちゃん」オリジナルフレーム
切手贈呈式にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●知事がインドを訪問

・10月6日から10月12日まで、仁坂知事はインドを訪問しました。経済成長が著しいインドの経済成長を牽引しているインド最大の都市ムンバイを州都とするマハラシュトラ州と、観光交流、食品加工、企業間協力に係る覚書を締結しました。

・また、世界遺産に登録されているエローラ石窟群・アジャンタ石窟群やジェイン・イリゲーションシステムズ社があるジャルガオン市を訪問し、文化教育プログラムを実施し、相互理解の促進を図りました。

○マハラシュトラ州観光公社オーランガバード支部長との会談

・多くの観光資源を有し、和歌山県と同じく観光が主要な産業の1つとなっているマハラシュトラ州観光公社の チャンドラシェイカー・ジャイスワル 支部長を訪問し、世界遺産をテーマとする交流等について協議しました。

・エローラ石窟群・アジャンタ石窟群は、「紀伊山地の霊場と参詣道」と同じく宗教の聖地であり、密教が生まれた地であるという点など多くの共通点や関連性を有することから、今後、広報活動等において互いに協力していくことで合意しました。



○ジェイン・イリゲーションシステムズ社訪問

・マンゴピューレや野菜加工分野で世界的な企業であり、太陽光発電やバイオマス発電にも力を入れている同社を訪問し、企業視察を行いました。

・同社は本年4月に経済産業省のプログラムで本県を訪問し、本県との協働に関心を持っていることから、今後、技術協力などについて検討していくこととなりました。

・また、同社は マハトマ・ガンディー の研究施設兼博物館、さらには全インドから生徒を集めた全寮制の小・中・高等学校などを設立・運営するなど社会奉仕活動にも積極的であり、今回、文化活動の一環として、和歌山県と共催で教育文化交流プログラムを実施しました。

・同行した和歌山外国語専学校 薮添 校長、慶風高校 田原校長が和歌山県と日本を紹介する授業を実施するとともに、全校生徒及び多くの市民が参加する中、高野山関係者が声明を披露しました。多くの生徒から質問が出されるなど、本県及び日本に高い関心を示しました。

・インド側からは、伝統舞踊の披露などインド文化の紹介があり、県代表団を心から歓迎してくれました。また、青少年交流の実施について提案があり、今後検討していくこととなりました。



○アジャンタ石窟群・アジャンタ・ビジターセンター訪問

・世界遺産であるアジャンタ石窟群を視察するとともに、9月にオープンしたばかりのアジャンタ・ビジターセンターを訪問しました。

・同センターは、JICAが遺跡保護、総合観光開発、インフラ整備を目的として建設したもので、県との「覚書」の具体的な協力事項の1つとして同センターと県世界遺産センターとの提携に向けて、協議が行われることとなりました。



○マハラシュトラ州首相表敬と覚書締結

・マハラシュトラ州の プリスヴィラジ・チャバン 首相を訪問し、州観光大臣、州農林大臣及び在ムンバイ日本国総領事同席のもと、観光交流・食品加工・企業間協力に係る覚書を締結するとともに、今後の交流の発展について意見交換しました。

・仁坂知事から、今回の覚書を契機として、映画撮影に最適な風景、文化、歴史等を有している和歌山県へのボリウッド映画誘致への支援について打診したところ、チャバン 首相から最大

の協力をしたいとの発言がありました。また、本県は、関西空港に隣接し、大都市圏である大阪へも近く、マハラシュトラ州企業関係者が日本市場を開拓するゲートウェイである上、食品加工分野においても優れた技術を持つ企業が多いため、両県州間での企業間協力についても協力していくことで合意しました。

・チャバン首相からは、県との交流の絆を深めることを目的に同州の英雄でインド憲法の起草者である アンベドガー 博士の記念碑の設置について要望があり、今後前向きに協議していくこととなりました。



○和歌山プロモーション

・ムンバイ市内のホテルにおいて、本県が誇る豊かな観光資源や自然の恵みを受けた「食」等の魅力を伝えるべく、仁坂知事は、トッププロモーションを実施しました。政府関係者、メディア関係者、旅行業関係者、現地企業など100名を超える参加者があり大盛況でした。

・また、現地旅行社向けの観光セミナー及び現地企業関係者を対象とした企業セミナーも開催し、和歌山県についてのPRを行いました。観光セミナーにおいては、JNTO(日本政府観光局)がインドからの訪日観光客の拡大に向けた取組について、その後、県担当者及び県内事業者が和歌山県の観光資源及び具体的な旅程について、プレゼンテーションによる積極的なPRをし、現地旅行業関係者からは高い関心が寄せられました。

・企業セミナーにおいては、インド工業連盟関係者や地元企業関係者に対し、県担当者から和歌山県の地場産業の強みなど県内の産業について紹介し、その後、県内参加事業者から各社が持つ技術力や製品の強みについてプレゼンテーションを実施し、今後のインドでの事業展開の足がかりとしました。



○ボリウッド映画関係者訪問

・インドは、世界一の映画制作本数を誇る映画王国であり、映画産業が集積するムンバイで制作される映画は、ハリウッドになぞらえてボリウッド映画と呼ばれています。

・インドの人は海外旅行に際し映画ロケ地を選ぶ傾向が強く、インドからの観光客を本県に呼び込むため、仁坂知事は、県内にインド映画ロケの誘致に向けて、インド映画界の重鎮 マヘシ・バット 氏ほかボリウッド映画関係者を訪問し、和歌山県のPRをしつつ、県内でのロケーションハンティングについて提案しました。



○インド都市開発大臣及び国会議員との協議

・政権の有力閣僚である カマル・ナート 都市開発大臣及び州選出の有力国会議員 D. P. トリパティ議員と会談し、今回の覚書締結について中央政府の迅速な承認に尽力いただいたお礼を述べつつ、今後の交流の促進への継続的な支援を依頼し、快諾を得ました。



●「元気な和歌山」の実現に向けて平成26年度新政策が決定

・県は、景気回復に対する期待が高まる中、さらなる成長への道筋をつけるため地域経済の活性化に向けた政策を推進すると同時に、甚大な被害が予測される南海トラフの巨大地震対策や人口減少に伴う高齢化の進展等、様々な課題に的確に対応するため平成26年度の新政策を決定しました。

・「元気な和歌山」の実現に向け、『安全と安心の政策』『未来への投資の政策』の2つの政策を柱に、企業や県民一人ひとりが可能性を最大限に発揮できる社会づくりを推進していきます。

・今後は、この決定した項目を踏まえ、市町村長との懇談会等を通して意見を聞くとともに、さらに内容を具体化し、予算化が必要なものについては知事査定を経て来年度の予算案となり、2月議会に上程されます。

安全と安心の政策

□災害予防の推進

- 宿泊施設や病院、幼稚園、老人ホームなど大規模建築物の耐震診断や補強設計、耐震改修を支援
- 非木造住宅の耐震改修を支援対象に加えることで住宅の耐震化を加速
- 津波避難困難地域の解消に向け、県営住宅に屋外階段や手すりを設置し津波避難ビルとして整備
- 地震による被害を軽減するため、家具や冷蔵庫などの転倒防止対策を推進
- 災害時の医療を確保するため、災害拠点病院等の自家発電装置や受水槽、ヘリポート等の整備や診療データの保全を支援
- 地震や豪雨等による被害を軽減するため、危険ため池の改修を加速化 など

□災害応急対策の充実

- 災害時に必要となる情報の提供を確保するため、ラジオの放送ネットワークの強靱化を促進
- 巨大地震発生後の県民生活に不可欠な水を確保するため、配水池の耐震化と緊急遮断弁の設置を促進
- 大規模災害発生時に必要な食料や飲料水等を確保するため、災害用緊急物資の計画的な備蓄を推進
- 大規模災害発生時に派遣される県の災害緊急機動支援隊の装備を充実
- 自主防災組織や市町村職員に避難所運営訓練を実施し、運営リーダーを養成
- 災害発生時の円滑な救援活動に必要な幹線道路ネットワークの整備を促進 など

□質の高い医療の確保と健康づくりの推進

- がんの早期発見、早期治療を促進するため、検診の推進を本格化
- 質の高い在宅医療を効率的に提供するため、地域の病院等を連携拠点とし、医療や介護などの関係機関連携による24時間対応体制を構築
- 県民の健康意識の向上や地域全体での健康づくりなどを促進するため、健康推進員制度を創設など

□安心して暮らせる社会の構築

- 結婚を望む方を応援するため、出会いの機会を拡大するとともに、ボランティアの世話役や仲人事業者を登録する制度を創設
- 保育需要の増加に対応するため、潜在保育士の掘り起こしを行う「保育士・保育所支援センター(仮称)」を設置
- 新幼保連携型認定こども園への円滑な移行を促進するため、教育や保育に従事する職員のスキルアップを支援
- 元気な高齢者がこれまでに培った経験や知識を活かしながら、介護予防や地域の課題解決の担い手として十分に能力を発揮できる仕組みを構築
- 高齢者が豊かな生活を送れるようにするため、和歌山版リバースモーゲージ制度を整備するとともに、介護などのサービスを受けながら地域で安心して暮らせるよう、有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅等の整備を促進
- 電気自動車の普及促進と利便性向上のため、道の駅など県内主要ポイントに充電設備を設置 など

未来への投資の政策

□地域経済を支える産業の強化

- 中小企業の開発ニーズに合致した大学等研究機関を紹介し、県内企業の開発力を強化
- 元気な担い手への農地の集積、集約化を促進するため、和歌山に適した農地流動化の仕組みを構築
- 野菜花きの産地拡大を推進するため、省エネ、高品質化、低コスト化などに必要な設備投資や販売促進活動を総合的に支援
- 天然の梅のみを使用した梅酒を「本格梅酒」として需要拡大を図るため、人口酸味料を添加した梅酒の判別方法を研究
- 地域林業や木材産業の振興を図るため、公共建築物や公共土木工事における紀州材の利用を促進
- クロマグロの人口種苗の導入により国際的な漁獲規制などに左右されない安定的な養殖マグロの生産体制を確立
- 県内観光地にWi-Fiアクセスポイントを整備し、外国人旅行者の受入環境水準を向上
- 世界遺産登録10周年、デスティネーションキャンペーン、高野山開創1200年、紀の国わかやま国体・大会と連続するビッグイベントを最大限に活用した誘客キャンペーンを切れ目なく展開
- おもてなし力向上のため、「和歌山おもてなしトイレ大作戦」を加速させるとともに、タクシーや旅館などの接客や接遇能力を向上 など

□魅力ある地域づくり

- 良好なまちづくりを促進するため県が主導的に土地利用案を作成し市町村の都市計画の見直し支援
- 広域的な周遊観光の振興や県民の健康づくりを促進するため、紀の川サイクリングロードなどの整備を推進
- 観光地や地域の賑わいづくりのために、県道沿いに駐車場やトイレを備えた「まちなみの駅(仮称)」を設置
- 地域資源を活用したまちおこしや、過疎集落の再生と活性化のため、「わがまち元気プロジェクト」、「過疎集落支援総合対策」を充実強化
- 森林環境の保全や農山村地域の活性化のため、「企業の森」や「企業のふるさと」等、CSR活動に取り組む企業の掘り起こしを強化 など

□成長を支える社会インフラの整備

- 近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、府県間道路、川筋道路などの道路ネットワーク整備を促進
- 社会インフラの総点検結果を踏まえ、道路や河川、港湾などの老朽化対策を実施
- 紀淡海峡ルートやフリーゲージトレインの早期実現に向けた、気運醸成のための活動を展開 など

□子どもの自立を育む教育と文化の振興

- 優秀な退職教員を活用し、教育実践力や学級経営を若手教員に継承
- いじめや不登校を防止するため、個々の生徒や学級集団の実態を把握する心理検査を実施し、教員の的確な指導に活用
- 企業の採用経験者等を活用し、就職担当教員の指導力の強化を行い、高校生の内定率の向上と早期離職を防止
- 高野山開創1200年を控え、空海の業績と人物を顕彰するためのシンポジウムを開催
- 南方熊楠の偉大な業績を後世に伝え学術の振興と文化の進展を図るため、南方熊楠記念館を再整備
- 南紀熊野ジオパーク認定に向けて、ジオガイドの養成やジオツアーの開催など地域を盛り上げる取組を推進
- 県立紀伊風土記の丘の魅力を高めるため、国の特別史跡「岩橋千塚古墳群」の指定範囲の拡大に向けた調査を実施

□紀の国わかやま国体・大会に向けた取組

- 来県者への大会情報や観光情報を発信するため、「きいちゃんステーション(仮称)」を設置
- 男女総合優勝をめざしたトップアスリートの育成など競技力を強化
- ドーピング防止のため、薬局等で選手の医薬品に関する相談に応じるスポーツファーマシスト養成
- 開催気運を醸成するため、競技団体と市町村が一体となって国体リハーサル大会を開催
- おもてなしの心で来県者をお迎えするため、会場運営や聴覚障害のある方をサポートするボランティアを養成
- 国体施設や観光施設などへの洋式トイレの導入や温水洗浄便座の設置、洗浄操作のセンサー化などを重点的に推進 など

●「濱口梧陵シンポジウム」を開催しました。

・10月26日、濱口梧陵の人物顕彰とともに津波防災の予防啓発を目的に、明治大学アカデミーホール(東京都千代田区)において、「和歌山県が生んだ津波防災の先覚者 濱口梧陵シンポジウム これからの津波防災～稲むらの火～の教えから学ぶ」を開催(主催：和歌山県・明治大学、共催：内閣府)しました。

・一昨年、津波対策の推進に関する法律により、「稲むらの火」の故事が残る11月5日が「津波防災の日」に制定されたことにちなんで、この日に近い10月26日に開催することとなりました。

・シンポジウムの冒頭、内閣府 日原 洋文 政策統括官が、「南海トラフを震源とする地震は100年から150年周期で起こっている。災害に遭う度に、その経験を子孫に伝える努力を行っており、濱口梧陵のエピソードを基に災害からどう生き残るかを考える機会にしてほしい。」と挨拶がありました。

・第一部では、関西大学社会安全学部社会安全研究センター長・教授であり、人と防災未来センター長 河田 恵昭 氏から基調講演をいただき、南海トラフを震源とする巨大地震は避けられない運命にあり、沿岸に住む人は地震が起これば身一つで高台に逃げるということが重要であることを、濱口梧陵が高台の神社へ村人を導いた教訓から強調されました。

・第二部では、河田氏にコーディネーターを務めていただき、俳優の 石丸 謙二郎 氏、作家の 大下 英治 氏、明治大学特任教授で日本災害復興学会会長の 中林 一樹 氏、仁坂知事がパネリストとなって、パネルディスカッションを実施しました。

・石丸氏は、日曜劇場の「J I N(仁)」で濱口梧陵役を演じた経験や、濱口梧陵に縁のある和歌山を旅行したときの思い出などを話され、濱口梧陵は映画化するに相応しい人物であると話されました。

・大下氏は、本年「津波救国〈稲むらの火〉濱口梧陵伝」を執筆され、津波の後の復興事業を中心に、濱口梧陵の人生全般にわたって紹介されました。

・中林氏は、防災研究者の立場から濱口梧陵の行動が、津波だけでなくあらゆる災害から命を守る基本となることを話されました。

・仁坂知事は、濱口梧陵の功績は津波防災だけでなく、医学や教育の振興など幅広いことを紹介するとともに、一昨年の紀伊半島豪雨災害時の復興の際に、濱口梧陵の行動が活かされたことを話しました。

・なお、本シンポジウムには、かつて濱口梧陵も当主を務めていたヤマサ醤油株式会社の協賛を得て、「稲むらの火」という特製醤油を来場の皆さんに提供していただきました。

・参加者からは、「和歌山県からこのような素晴らしい人が輩出されていたことを知らなかった、参加して本当によかった。」との感想があり、濱口梧陵の功績を通じて津波防災の重要性を再認識する一日となりました。



●「稲むらの火祭り」が開催されました

・10月19日、広川町において、濱口梧陵の功績を讃えるとともに、防災への意識を高めることを目的に「稲むらの火祭り」が開催されました。

・濱口梧陵は、安政の大地震に際し、稲むらに火をつけ住民を高台に導き、その後、私財をなげうって大規模な堤防の建造を手がけるなどの功績がよく知られています。

・祭りの開会に当たり、仁坂知事は、「10月26日に東京で濱口梧陵シンポジウム、11月4日に和歌山市で津波防災講演会を開催し、県の偉人である濱口梧陵の功績とその精神を全国に発信していきます。」と挨拶しました。

・その後、広川町の皆さんなど約400人が町役場前から当時避難先となった広八幡神社までの約2kmを練り歩くとともに、神社前の田に積み上げられた稲むらに火をつけ、暗がりで見えぬ村人に避難先を示した「稲むらの火」の故事を再現しました。



●「第30回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」が本県で開催

・11月1日、第30回伝統的工芸品月間国民会議全国大会が、県内で初めて開催されました。

・本大会は、国が毎年11月を「伝統的工芸品月間」と定め、昭和59年度以降毎年開催されているもので、全国から伝統工芸士等が一堂に会し、功労者への表彰などが実施されるとともに、全国の伝統的工芸品の展示販売、製作体験などの各種イベントが開催されました。

・全国大会の記念式典の冒頭、開催県として仁坂知事が、「橋本市を中心に作られている紀州へら竿が今年国の伝統的工芸品に指定され、紀州漆器、紀州箆笥とあわせて三つ目の指定となり大変嬉しい。全国大会開催により、全国から多くの伝統工芸に関係する方々が集まられて、親睦を深めると同時に色々な悩みについて話し合いながら、伝統的工芸品のためにまた頑張ろうと申し合わせて、それぞれの地域に帰っていただきたい。」と県の伝統工芸品のPRと大会の盛り上がり期待しました。

・この後、「市民生活と伝統工芸」と題したシンポジウムでは、ファッションジャーナリストの生駒芳子氏、洋画家の城戸真亜子氏、仁坂知事らがパネリストとして出演し、市民生活に密着したものづくりを基本に伝統工芸品の今後の発展について、意見が交わされました。

・このほか、11月2日から11月4日の間、「日本伝統工芸士会作品展」、「和歌山県伝統工芸品展示会」等のイベントが開催され、「紀州漆器まつり」とあわせて、県内をはじめ全国の伝統的工芸品に身近に触れられる機会となり、大変な賑わいとなりました。



●スポーツ祭東京2013 和歌山県選手団大活躍

- ・9月28日から10月8日まで、東京都で開催された「第68回国民体育大会 スポーツ祭東京2013」において、県選手団は、男女総合の得点で990.5点を獲得しました。目標としていた1,025点には届きませんでした。男女総合(天皇杯)の順位は、昨年の岐阜国体の21位から18位へと順位を3つ上げ、こちらは目標を達成しました。
- ・7競技8種目で優勝し、18競技75種目で入賞。特に競技得点の高い団体戦での健闘が高得点へとつながりました。3年後の紀の国わかやま国体での男女総合優勝をめざして、今後ご声援をお願いいたします。

「スポーツ祭東京2013」における 和歌山県選手団 星 総監督コメント

今大会は、男女総合成績1,025点、第18位を目標としていましたが、結果は、990.5点、第18位となり、昨年の岐阜国体の934.5点、第21位に比べ、56点増加し、順位を3つ上げることができました。

男女総合得点が増加した主な理由としましては、冬季競技で得点できたこと、昨年と比べ優勝種目が増えたこと、安定して力を発揮する選手が増えてきたことなどが挙げられます。

今後、チームスポーツの強化や女子種別の強化に引き続き取り組むとともに、優れた指導者の養成・確保及び競技者の発掘・育成・強化をより一層推進してまいります。

○スポーツ祭東京2013 優勝者

(順不同、敬称略)

競技	種別	種目	氏名	所属
自転車	成年男子	ロードレース	窪木 一茂	県教育庁スポーツ課
セーリング	成年女子	セーリング スピリッツ級	宮川 恵子	和歌山セーリングクラブ
			栗栖 佐和	県セーリング連盟
フェンシング	成年女子	フルーレ団体	九野 桃佳	県教育庁
			松本 伊世	県立和歌山高等学校教員
			和田 尚子	NEXUS 株式会社
カヌー	成年男子	カヌースプリント カナディアンシングル500m	阪本 直也	県教育センター学びの丘
		カヌースプリント カナディアンシングル200m		
陸上	成年男子	800m	岡 昇平	NPO法人はまゆう和歌山
アーチェリー	少年男子	団体	山田 啓睦	県立和歌山高等学校
			坂本 一磨	県立貴志川高等学校
			倉矢 知明	県立貴志川高等学校
レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル74kg級	奥井 眞生	県立和歌山工業高等学校

●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会に係る大会協力企業の決定について

・10月10日、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会企業協賛制度における「大会協力企業」に決定した有田交通株式会社の「おもてなしタクシー『きいちゃん号』」のお披露目式がありました。



・両大会の開催年にちなんだ「2015」のナンバープレートをつけ、車体には「きいちゃん」がデザインされています。有田交通(株)の岩橋 正典 社長は、「両大会の成功に向け、一緒になって盛り上げていきたい。県外から来た人に和歌山に来てよかったと思ってもらえるように接客していく。」と抱負を述べました。

・今後、「きいちゃん号」は、和歌山市内を中心に走り、両大会をPRしていきます。

●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金(きいちゃん募金)に係る感謝状贈呈

・10月21日と10月28日、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金(きいちゃん募金)に、多額の寄附をいただき、以下の企業に仁坂知事から感謝状を贈呈しました。



・仁坂知事は寄附をいただいた以下の各企業の皆さんに、お礼とともに、「今後は、選手強化とおもてなしやクリーンアップ運動などの県民運動を進めていきます。」と述べました。

・提供いただきました寄附金は、両大会のボランティア活動や県民運動など、大会運営経費に活用させていただきます。

企業名	出席者	企業名	出席者
中田食品(株)	中田 肇 代表取締役会長	(株)丸山組	丸山 博之 代表取締役
(株)タチバナ	橘 一郎 取締役会長	(株)尾花組	尾花 滋 代表取締役
(株)山長商店	榎本 長治 代表取締役	(株)田中組	田中 善春 取締役会長
紀南砕石工業(株)		三友工業(株)	矢部 幸雄 代表取締役社長
丸長水産(株)	柴田 隆至 代表取締役会長	(株)東組	東 宗弘 代表取締役社長
(株)プラス	野田 正史 代表取締役	(株)豊工業所	久保 晋典 代表取締役社長

●オリジナルフレーム切手「2015紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」販売中

・10月18日、開催まで2年に迫った「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」をPRするため、日本郵便株式会社から両大会マスコット「きいちゃん」がデザインされたオリジナルフレーム切手の販売が開始されるとともに、販売を記念して贈呈式が開催されました。



・切手を受け取った仁坂知事は、「切手はよいですね。国体も近づいてきており、郵便局にも引き続きご協力をお願いします。」とお礼を述べ、日本郵便(株) 安村 幸夫 近畿支社長は、「切手は全国の方が受け取る。きいちゃんのかわいいキャラクターを生かして、より多くの方に大会に関心を持っていただけたら。」と期待を込めました。

・切手シートの販売部数は2,800部の予定ですが、販売状況によって追加発行もあります。お求めは和歌山県内の郵便局で。

●「紀の国わかやま国体 馬術競技事務所」を開設



・紀の国わかやま国体馬術競技会の準備業務を本格化するため、11月1日、同競技会場地である兵庫県三木市(みのがわ会館2階)に競技会開催準備の拠点とする事務所を開設しました。

・県外4競技(馬術、水泳(飛込・シンクロ)、ボート、クレ一射撃)のうち、初めての県外現地事務所の開設となりました。

・設置期間は、平成25年11月1日から平成27年11月30日の予定で、今年度は職員2名体制により、競技会場の整備やボランティアの募集、競技役員の確保、警察・

消防等地元関係団体との連絡調整など現地業務にあたります。

●高齢者の見守り活動に関する協力締結

・本年4月に、全国初となる県全域での見守り協力として民間事業者5者と「高齢者等の見守り協力に関する協定」を締結したところですが、10月18日、高齢者の見守り活動に関し、新たに宅配事業者3社と協定を締結することとなり、調印式が行われました。

・協定の締結式において、仁坂知事は、「県は高齢化率が高く、山間地で隣家と離れてひとり暮らしをする方も多し。協力はたいへんありがたく、大いに期待しています。」とお礼を述べました。

・この協定は、ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で、安全・安心な生活を送れるように、高齢者と接する機会の多い民間事業者と連携することによって、孤独死や消費者被害の恐れのある高齢者等をいち早く発見し、行政の支援につなげることが目的です。本年4月から全国初で取り組んでおり、4月に5者と締結し今回は2回目の調印式となりました。

・4月の協定締結以来、民間事業者の通報により高齢者の命が助かったという事例も報告される中、セールスドライバーが商品の宅配時における高齢者等の異変や配達業務中での不審車両等、様々な異変を察知した際に市町村に連絡していただくこととなり、さらに幅広く高齢者を見守ることができます。

○協力民間事業者



企業名	代表者
佐川急便(株)	関根 眞二 取締役西日本支社長
西濃運輸(株) 和歌山支店	那須 博幸 和歌山支店長
ヤマト運輸(株) 和歌山主管支店	前川 好男 和歌山主管支店長

●「亀田の柿の種」と「和歌山のぶどう山椒」が結婚しました！

・10月10日、恵比寿ザ・ガーデンルーム(東京都目黒区)において、亀田製菓株式会社(本社:新潟市)の「亀田の柿の種(花婿)」と「和歌山のぶどう山椒(花嫁)」がめでたく結婚式を挙げました。

・この結婚式は、「亀田の柿の種」と最も相性のよい食材を結婚相手と見立てて、全国から特産物を募集する「亀田の柿の種の婚活」プロジェクトにおいて、全国の強豪ひしめく花嫁候補の中から、「和歌山のぶどう山椒」がみごと投票数1位の座を射止めたものです。

・結婚式に新婦側で出席した和歌山県紀美野町の 寺本光嘉 町長は、「柿の種の最もふさわしい花嫁です。感激しています。」、有田川町の 山崎 博司 副町長は、「少々辛口なところもありますが、頑張り屋なところがあります。」と喜びの言葉を述べました。また、新郎側の亀田製菓(株)の 田中 通泰 社長は、「最高のパートナーに出会えました。今後ともよろしくお願ひします。」と述べました。

・この結婚に伴い来年の2月には、新商品「和歌山のぶどう山椒を使用した柿の種」が全国で発売される予定で、県では、これを絶好の機会と捉え、紀美野町・有田川町とも連携し、日本一の和歌山のぶどう山椒をPRしていきます。 皆さんぜひ一度ご賞味ください。



●県内小学校へかきを提供しました

・8月号でもお知らせしましたが、県では、地産地消の取組として、昨年度から県内小学校・特別支援学校の給食や家庭科等の教材として主要農水産物の提供を行っており、今年度は、みかん、かき、魚に加え、うめ、ももの5品目を提供します。

・今回、教育委員会と連携し、県内すべての258校の小学校で子どもたち自らが包丁を使った柿の皮むき体験等を行いました。

・また、以下の学校において、各振興局農業振興課の職員が「かき」の生産状況等について子どもたちに説明する出前授業を行いました。出前授業を受けた子どもたちは、「和歌山県が生産量全国1位とは知らなかった。」と話し、自分で皮をむいたかきを食べて、「皮をむくのは難しかったけれど、甘くて美味しかった。」「家でもまた食べたい。」と大変好評でした。



○実施校

実施日	実施校名	実施日	実施校名
10月7日	紀の川市立麻生津小学校	10月18日	紀美野町立下神野小学校
10月10日	有田市立田鶴小学校	10月22日	有田川町立石垣小学校
	御坊市立御坊小学校	10月25日	岩出市立根来小学校
10月16日	橋本市立三石小学校	10月29日	すさみ町立周参見小学校
	新宮市立神倉小学校		

●真和テック株式会社が紀北橋本エコヒルズ「紀ノ光台」へ進出

- ・11月1日、昭和精工株式会社(本社：大阪岸和田市)のグループ企業である真和テック株式会社が橋本市の紀北橋本エコヒルズ「紀ノ光台」へ進出することが決定し、協定を締結しました。これで、平成18年12月以降の企業立地件数は119件となりました。
- ・昭和精工グループは昭和36年設立で、主に自動車に使われるベアリング部品を製造しており、鍛造から旋削まで一貫体制で精度が高い製品をスピーディーに生産することにより、国内外の大手ベアリングメーカーとの取引があります。
- ・今回、グループ内生産拠点の防災対策と現存工場の統合による効率化・労働環境の改善を目的として、旋削加工を担う真和テック株式会社を橋本市へ新築移転し増強することとなりました。

●老舗大手ベーカリー・DONQ(ドンク)で『ぎゅっ!と和歌山いちじく』フェア開催

- ・11月1日から11月30日の30日間、株式会社 ドンク(本社：兵庫県神戸市)が運営する、ミニクワッソンの量り売りでおなじみの「ミニワン」において、『ぎゅっ!と和歌山いちじく』フェアが開催されています。
- ・このフェアは、全国のミニワン134店舗で実施されており、100g(4~5個くらい)あたり252円(税込)で販売されます。ミニクワッソンといちじくの美味しさが、『ぎゅっ!』とコラボレーションした限定商品です。また、ベーカリーDONQでは「和歌山県紀の川いちじくジャム」も販売されます。全国2位のいちじくの産地である本県産のいちじくで作られたジャムは、ほどよい甘さとさっぱりとした風味。皆さんも、是非、ご賞味ください!



●「世界民族祭 in 真国」が開催されました

- ・10月19日と10月20日の2日間、紀美野町のりら創造芸術高等専修学校において、世界民族祭 in 真国が開催されました。
- ・この祭りは、世界はひとつ、人の繋がりを大事にしたいとの思いから、紀美野町真国地区の皆さんとりら総合芸術高等専修学校の皆さんが協働して平成21年度から開催、今回が5回目となりました。



- ・10月20日の式典において仁坂知事は、「真国地区は、過疎集落支援総合対策事業を活用し、コミュニティーアートスペース「真国の荘」やイタリアンレストラン「ステラート」が開設されるなど地域が元気になってきました。これからも世界民族祭を盛り上げることで地域の活性化をさらに進めていきたい。」と挨拶しました。
- ・祭りには、アジアをはじめ南米、アフリカなど世界各国の民族が集まり、芸術、舞踊、食等を通じて、異文化間、世代間の交流を図り、お互いの民族への理解を深めました。また、多くの人を迎えることで地域活性化に取り組む真国地区が大変賑わいました。

● 関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会設立記念シンポジウム開催！

・先月号でお知らせしました、「関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会」の設立を記念して、高速交通インフラ整備の意義や必要性を国等に対して強く働きかける機運を醸成するため、シンポジウムを開催します。是非、ご参加ください。

関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会 設立記念シンポジウム

～国土強靱化、成長戦略と関空・紀淡・四国高速交通インフラの整備～



日 時：平成25年11月28日(木) 13:30～16:00

場 所：イイノホール&カンファレンスセンター4階(東京都千代田区内幸町2-1-1)

次 第：基調講演「オールジャパンで進める国土強靱化」

藤井 聡 内閣官房参与・京都大学大学院工学研究科教授

パネディスカッション「強靱な国づくりに求められる高速交通インフラの整備」

藤井 聡

安藤 圭一 新関西国際空港株式会社代表取締役社長・CEO

飯泉 嘉門 徳島県知事

仁坂 吉伸 和歌山県知事

申 込 先：関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会事務局

(和歌山県企画部地域振興局総合交通政策課内)

必要事項(①氏名②所属団体名③連絡先④参加人数)を明示の上、以下の方法によりお申し込みください。

電 話：073-441-2344 FAX：073-441-2340

E-mail：e0205001@pref.wakayama.lg.jp

申込締切：平成25年11月21日(木) (事前申込制)

イベント情報(11月11日～12月10日)

期間	行事名	場所	問い合わせ先
11/13	開山忌	和歌山市・紀三井寺	紀三井寺 073-444-1002
11/14	熊野那智大社「紅葉祭」	那智勝浦町・熊野那智大社	熊野那智大社 0735-55-0321
11/14～ 11/15	堅田例大祭	白浜町・堅田八幡神社	白浜観光協会 0739-43-5511
11/16	いせえび祭り	那智勝浦町・ 勝浦漁業協同組合	那智勝浦町観光産業課 0735-52-0555
11/17	印南かえるのフェスティバル	印南町・ 印南漁港内町駐車場	印南町活性化イベント実行 委員会 0738-42-1737
11/17	平家ゆかりの地を訪ねるウォーク	那智勝浦町	那智勝浦町観光協会 0739-52-5311
11/17	古座川の秋まつり (農林業祭り)	古座川町・ 明神小・中学校グラウンド	古座川町産業振興課 0735-72-0180
11/23	万呂の獅子舞奉納	田辺市・万呂須佐神社	田辺市観光協会 0739-26-9929
11/23～ 11/24	熊野スイーツフェスティバル in 那智勝浦	那智勝浦町・ 勝浦漁協前駐車場	那智勝浦町観光産業課 0735-52-0555
11/23～ 11/26	翔龍祭	田辺市・龍神ドーム	翔龍祭実行委員会事務局 0739-78-0111
11/24	紀美野町農林商工祭り 柿の市	紀美野町・ 紀美野町文化センター	農林商工まつり実行委員会 073-489-5901
11/24	産業まつり	紀の川市・貴志川体育館	産業まつり実行委員会 事務局 0736-77-2511
11/24	食祭WAKAYAMA	和歌山市・ 和歌山城砂の丸広場	和歌山市食のイベント実行 委員会 073-435-1234
11/24	こだま祭	田辺市・本宮行政局駐車場	本宮行政局産業建設課 0735-42-0022
12/1	ねんねこ祭り	串本町・木葉神社	古座観光協会 0735-72-0645



「印南かえるのフェスティバル」は、イベントを通じて印南町の特産品や加工品などをPRし、地域の活性化を図る目的で始まりました。かえるは、「考える」「人をかえる」「町をかえる」「古里へかえる」「栄える」の願いが込められた、印南町活性化のイメージキャラクターです。

自然・風物情報(11月中旬～12月上旬)

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
11月中旬	串柿づくり最盛期	かつらぎ町・四郷地区	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
11月中旬	白良浜冬支度 防砂ネット設置	白浜町・白良浜	白浜町観光課 0739-43-5511
11月中旬	新酒の仕込み始まる	新宮市・尾崎酒造	尾崎酒造 0735-22-2105
11月中旬	ジャンボクリスマスツリーお目見え	和歌山市・マリーナシティ	マリーナシティ 0570-064-358
11月下旬	紅葉見ごろ	和歌山市・紅葉溪庭園	和歌山城管理事務所 073-435-1044
		田辺市・奇絶峡	田辺観光協会 0739-26-9929
		新宮市・瀨峡	熊野交通(株) 0735-22-6220
11月下旬	大銀杏色づく	田辺市・中辺路町	中辺路観光協会 0739-64-1470
11月下旬	子授け銀杏色づく	古座川町・三尾川	古座川町観光協会 0735-72-0645
11月下旬	熊野那智大社で 大絵馬の掛け替え	那智勝浦町・熊野那智大社	熊野那智大社 0735-55-0321
12月上旬	白良浜イルミネーションイベント	白浜町・白良浜	白浜町観光協会 0739-43-5555
12月上旬	ウエルカムロード・プチルミ	橋本市・学文路駅前	同実行委員会 0736-32-7300
12月上旬	海霧の発生	串本町・田原の海岸	串本町観光協会 0735-62-3171
12月上旬	センリョウの収穫	印南町真妻地区	J Aみなべいなみ 0739-72-4387
12月上旬	「するめーる」年賀状バージョン	すさみ町	すさみ町商工会 0739-55-2293

熊野古道・中辺路の山間、宝泉寺境内にそびえる大銀杏。
推定樹齢は400年、高さは22メートル、幹周りは5メートルを超えます。葉を散らし始めるその一瞬は、まばゆいばかりに黄金色に輝きます。



～編集後記～

先日は近畿地方で木枯らし1号が吹き、着実に冬へと季節の移ろいが実感されるこの頃ですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

今月号でお知らせしましたが、県では、来年度の新政策の方針を発表しました。「元気な和歌山の実現」に向け、「安全と安心の政策」「未来への投資の政策」を2つの柱に各種事業を展開することとなりました。大規模災害対策、農林水産業の活性化、国体に向けた受入体制の整備等、県が直面する課題に的確に対応して参ります。

さて、今月号は、「食欲の秋」の話題をいくつかいたしたいと思います。

和歌山県は収穫量日本一の柿が有名ですが、なかでも、かつらぎ町では正月の鏡餅に飾る串柿づくりが最盛期を迎え、天日干しにされた柿により四郷地区一体が柿色に染まっています。夏が長くなって秋が短くなったと言われますが、我が家でも少し柿を作っていて、柿とともに育った私としては、秋の深まりが最も感じられる風景です。和歌山には、四季折々の風物詩が季節の変化を知らせてくれる自然の美しさがあります。農業従事者の高齢化や後継者不足など、農業を取り巻く環境は厳しいですが、こうした和歌山ならではの風景をいつまでも残していくことも大切です。

また、11月と言えば新酒初しぼりの時期です。県内屈指の酒どころである海南市において、「海南市地酒で乾杯を推進する条例」が制定されました。全国的に日本酒の消費量が低迷する中、地酒(梅酒や洋酒を含む。)で乾杯する習慣を広げて、消費拡大と日本文化への理解を深めることが目的だそうです。県外においても、海南市の地酒では、名手酒造の「黒牛」や中野BCの「梅酒」が、よく取扱いされています。皆さんも機会がありましたら、ふるさとを思いながら地酒で乾杯されてみてはいかがでしょうか。

さて、これからは一雨ごとに寒さが増してきます。風邪などひかれませんよう、くれぐれも御自愛ください。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2013年(平成25年)11月 NO.67
和歌山県 秘書課
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1
TEL 073-441-2022